令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	一般社団法人ツール・ド・九州
事業細目名	国際競技大会開催
事業名	ツール・ド・九州開催事業
助成金額	200,000,000 円

令和 6 年度国際競技大会助成を受け、一般社団法人ツール・ド・九州が行っている「ツール・ド・九州開催事業/マイナビツール・ド・九州 2024」の実施状況について調査を行いました。

第 2 回となる本大会は、前年度と同じ福岡県、熊本県、大分県で行われ、小倉城クリテリウム、大分ステージ、熊本阿蘇ステージ、福岡ステージの走行距離合計約 432km を 4 日間で、海外からのワールドチーム、プロチーム、また国内では UCI（国際自転車競技連合）コンチネンタル登録のチーム、全 17 チーム約 100 名の強豪選手が駆け抜ける UCI 公認のサイクルロードレースです。

小倉城クリテリウムでは小倉城を 25 周、大分ステージでは湯布院温泉地を通過し山岳地帯を走る厳しいコース、熊本阿蘇ステージでは世界最大級の大きさを誇るカルデラと草原をめぐる絶景コースの山岳ステージ、最終日福岡ステージでは玄海灘を見渡す波津海岸、垂見峠を通る周回コースとなり、最高時速 70km 前後で走る高レベルな選手達と、九州の自然を最大限に生かしたコースでの迫力のある大会となっていました。

■助成の意義

4 日間に渡り、異なる会場を転戦する本大会では、厳しいコースにおいて高速でのレース展開となることから、最大限の安全対策が求められます。そのため、警備員、交通整理、誘導案内等ボランティアスタッフの方を含む沢山の要員が必要となりますが、スポーツ振興くじ助成を活用することにより、レース運営と地区ごとのスタート・ゴール地点などに多くの人員を確保出来、安全性を最優先にしたレースを行えたことは、昨今のサイクルロードレースにおける事故の注目度合からも大変意義があることだったとのことです。

今回、国内のレースでは類を見ない規模の 20 台体制のオートバイク車両で構成されるエスコートモト隊をコースに走らせ、徹底した安全管理を実施したとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

開催県に設置されたステージ事務局また市町村により、各県にて PR イベントを行い、各県を代表するイベント「博多どんたく港まつり」等のパレードに大会イメージカラーの黄色のポロシャツを着用し PR に努めたとのことです。また、全国紙に大会の折り込みを入れ、全国的にも PR 活動を行ったとのことです。

その他にも、ロードレース形式の中でも、同じコースを巡回するようなポイントを何か所か作ることで、コースの設営や警備にかかる経費を抑え、限られた予算の中でも、満足度の高いコー

ス設定に努めているそうです。

■その他

ラグビーワールドカップのレガシーの持続的継承や九州におけるサイクルツーリズムの推進、近年九州を襲った自然災害からの復興を象徴するイベントとして昨年度に初回大会が開催されました。今後、単なるスポーツイベントにとどまらず、「Make Kyushu Sustainable～九州の持続可能な未来のために～」の方針を掲げ、次世代を担う若者の地域理解を深める学習、子供向け自転車教室開催等、本大会をベースに、様々な範囲の活動へと幅を広げているとのことです。

■所感

オンデマンド動画配信やハイライト動画におけるコメント欄は、全国各地から多くの自転車ファンの好意的なコメントで溢れており、本事業の注目度が非常に高いことを実感しました。次年度以降も、引き続き開催される予定とのことで、九州におけるサイクルスポーツの普及拡大、九州の美しい自然や風景を世界に発信することによる地域ブランディングへの貢献等、多くの効果が期待される本事業は、今後も九州一丸となり更に充実した大会とするべく、休むことなく次年度開催に向け始動しているとのことです。今後のツール・ド・九州開催が九州の未来と夢につながることを期待致します。

（令和 6 年 10 月 14 日往査）

（写真）マイナビ ツール・ド・九州 2024 の様子（※写真提供：一般社団法人ツール・ド・九州）



